

くずは地域の交通環境について

1. くずはの“まち”の特性

都市基盤施設（道路等）が整備されたまちである。

- ・新たな道路などの整備は不要で、今ある道路などの基盤を活かし、まちづくりが必要（我が国でも有数の基盤が整ったまちである）

大規模店が郊外化する中で、駅周辺に商業の集積がみられるまち

- * 郊外店では車でないと行けない店が多いが、駅前であれば車でなくても徒歩や自転車、バスでも行ける。（くずはや男山は人口の高齢化が急激に進んでいる）

駅前商業の駐車場は、大阪や京都の都心の交通問題を緩和するパーク＆ライドの役割を果たしている。

2. くずはのまちづくり、交通環境上の課題

国道1号沿道への郊外店進出による駅周辺への人の集積が減少

- * 人の集積は、新たな商業やサービスの需要を喚起し、まちの活性化を呼び起こすとともに、くずはの文化をつくる不可欠の要因である。

まちの都市基盤施設（道路等）は整っているが、道路の機能に応じた交通の運用がなされていない。

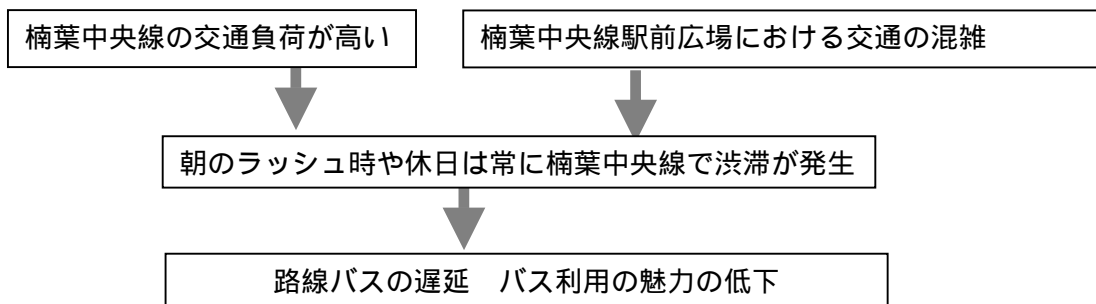
- *（補助）幹線道路で一方通行になっているところもあり、楠葉中央線に自動車交通の負荷がかかりすぎる体系になっている。（特に、楠葉中央交差点？…C-CATの前の交差点）

駅の交通結節機能として2つの駅前広場（楠葉中央線と北広場）があるが、楠葉中央線駅前広場の交通負荷が高い。

- * 北広場は、長時間駐車ができるくらいの余裕がある。

- * 楠葉中央線駅前広場の一般車が、バス運行と乗客乗降の障害となっている。（特に、降車時、危険である。一般車の速やかな退出のためのバスのクラクションが多い等）

路線バス遅延の交通問題上の構造



歩道の狭い区間での歩行者と自転車のすれ違い時や歩道の放置自転車の問題

3. ではどうすれば...? (提案)

<まちづくりの基本的な考え方>

“安心して暮らすことができ、くずは固有の文化が育つまち”

- ...・車を使わなくても(買い物などができる)安心して暮らすことができるまち
- ・震災などの災害時でも大きな冷蔵庫があるまち(駅周辺の商業集積を高める)
- ・安全、快適に歩くことができるまち(回遊性のあるまち)
- ・人と人の交流が文化を育むまち



<交通に関する提案>

“道路の運用体系再編と既存道路空間の再配分”

駅での一般車の KISS&RIDE は、北側サブ駅前広場を中心に

(中央駅前広場の一般車乗り入れ禁止)

* 駅での安全、円滑な乗降の確保 バス利用魅力の向上

楠葉中央線の駅方面1車線増設によるバス専用レーン化(朝のラッシュ時は、一般車利用)

* バスの定時性確保に寄与 バス利用魅力の向上

* 休日の車での買い物の利便性の向上 車による買い物でない方が良いが、現状で、ロードサイド型郊外店の魅力に負けられないようにするには車でも便利なまちであることが必要 人の集積を喚起 交流・文化を育む

並木(楠葉西小学校前)通り<補助幹線道路機能>の対面通行化

* 通学路であるが、歩道は設置されている。

* 夜が車の通行も少なく暗い

自転車道の設置(既存道路空間の再配分により設置できる道路?)

基本的な交通体系の提案

